

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>2) 教育環境を整備し、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>3) 広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①各種教職員研修の充実</p> <p>①協働精神に満ちた教職員の組織づくり</p> <p>①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成</p> <p>②特色ある学校づくりの推進</p> <p>②学校開放・公開，地域貢献ボランティア活動</p> <p>③マスメディアを活用した広報やホームページの充実，学校行事の公開等，積極的な情報発信</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①-1 各種教職員研修の実施 年10回以上</p> <p>①-2 職員共有サーバーの利用，資産持ち出し管理シートの活用に関するアンケートの実施 100%</p> <p>①-3 教員間の協力度を計るアンケートの実施 90%以上</p> <p>①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思統一 ウイルスチェック 年6回以上</p> <hr/> <p>②-1 地域に向けた開放講座の実施 年5回以上</p> <p>②-2 地域と連携した取り組みや地域の保全活動の実施 年6回以上</p> <hr/> <p>③-1 学校ホームページの更新 年50回</p> <p>③-2 体験入学の満足度を計るアンケートの実施（保護者を含む） 90%以上</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①-1 職員研修 10回実施</p> <p>①-2 管理シート活用 30件</p> <p>①-3 共通理解，風通しの良さ 94.0%</p> <p>①-4 ウィルスチェック 3回実施</p> <hr/> <p>②-1 9月以降4講座を5回実施</p> <p>②-2 部活動や専門教育による地域貢献活動 30回実施</p> <hr/> <p>①-1 学校ホームページ更新 97回 アクセス数 126,726件</p> <p>③-2 生徒満足度 99% 保護者・職員満足度 100% 自ら希望して参加 78.4%</p>	<p><b>評定</b></p> <p>B</p> <hr/> <p><b>総合評価</b></p> <p>B (所見)</p> <p>・コンプライアンス研修を通して「報告・連絡・相談」の徹底に努めるとともに，風通りのよい職場づくりを推進しているため，職員間の意思疎通がスムーズに行われた。</p> <p>・今年度実施された食物アレルギー対応講習会は，緊急時の対応を学ぶことができ，勉強になった</p> <p>・学校ホームページの更新回数は，前年度より増加しているが，さらに内容の充実を努めるため，各課に実施した行事を積極的に掲載するよう依頼していく。</p> <p>・部活動(JRC部等)や専門教育，生徒会環境美化委員会等のボランティア活動は，前年度に比べて増加している。今後とも積極的に地域の施設に連絡し実施回数を増やし，地元への貢献度を高くする。</p> <p>・開かれた学校づくりを推進するため，スクールカフェや農産物販売所を積極的に運営している。また，開放講座等を開催することにより，さらに充実した活動にしていく。</p> <p>・今年度の体験入学は，前年度より参加数は減少したが 中学生，保護者とも高い満足度であった。自ら希望して参加した割合が前年度より0.8ポイント低かったため学校ホームページ等を充実させ，本校の魅力を中学生に発信していきたい。</p>	<p>・「アグリ吉野川」や「スクールカフェ」等の活動で他校生徒との交流に引け目を感じて欲しくない。近隣の農産市やイベントへの参加，他校での販売実習等を通して地域や他校の生徒とのふれ合いを楽しみにしている生徒もいるようだ。次第に慣れてきているようなので続けて欲しい。</p> <p>・課題の取り組みに「課題研究発表会」がある。全校生徒に向けた発表を聞くことで1，2年生は学びを深め，課題解決への良い刺激となっていることがわかった。</p> <p>・学校ホームページの更新については，行事ごとに行っていて見やすい。本年度はスーパーオンリーワン事業も行っており，特別なページを作ったので載せてたのでわかりやすかった。</p> <p>・文化祭での書道部が行ったパフォーマンスの動画も載せていて良かった。</p> <p>・SNSやフェイスブックにも，土成農場の野菜や果樹の栽培と収穫の様子，養蚕プロジェクトへの取り組みを知ってもらいたい。タイミングが難しいのかもしれないが，新聞社にも取材に来てもらって広報してもらえれば，アクセス数も増えるのではないかと。</p>	<p>・「アグリ吉野川」や「スクールカフェ」等の活動は，地域住民からよい評価をいただいているが，まだ，十分とはいえない。今後は，地域の行政機関と連携し，地域に出向き，出張カフェや販売を増やしていく。</p> <p>・課題研究発表会は，農業・商業科の合同開催にして2年目になる。今後の課題として内容の充実を図る必要があるため，各科がそれぞれの特色を生かした研究に主体的に取り組む。</p> <p>・学校ホームページにおいて，本校に興味のある中学生や保護者等は，部活動の活動状況や各科の紹介のページをよく見ると思われるので，その点を考慮しながら内容の充実を図る。</p> <p>・スーパーオンリーワンハイスクール事業の一つとして書道パフォーマンスに挑戦したが，単年度で終わらないよう継続していく。</p> <p>・本校の特色ある取り組みを広く知ってもらうために，新聞社等のメディアに積極的に情報提供を行う。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 コンプライアンス，特別支援教育などの研修会を実施する。</p> <p>①-2 職員共有サーバーを活用し，校務の効率化を図るとともに，資産管理シートの活用を徹底を図る。</p> <p>①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り，教職員間の共通理解を深める。</p> <p>①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し，情報漏洩防止を図る。</p> <p>②-1 農業科・商業科の特色を生かした公開講座等を実施する。</p> <p>②-2 アグリクラブやビジネス研究部等の部活動や専門教育を通してボランティア活動を推進する。</p> <hr/> <p>③-1 保護者や地域に，本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう，ホームページの更新や充実を図る。</p> <p>③-2 体験入学において，本校の特色ある学習内容に関する講座を開設する。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①-1 コンプライアンス研修5回，教育相談ケース会議2回，食物アレルギー対応講習会，メンタルヘルス研修，特別支援教育研修を実施した。</p> <p>①-2 各課の資料作成等に利用し，時間短縮等校務の効率化が図れた。</p> <p>①-3 職員の組織的対応により生徒の問題行動や保護者・地域への対応など適切に対応できた。</p> <p>①-4 職員会議等を利用し，情報資産等の管理に関する研修を行った。</p> <p>②-1 藍染め体験2回(10名参加)，パン作り(10名参加)，地域食材を使った料理教室(5名参加)，押し花アート(4名参加)の講座を行った。</p> <p>②-2 押し花アート講習会10回(延215名程度参加)，はちみつ祭り1回(11名参加)，刈り花祭り(15名参加)，江川の芝生植え(10名参加)，アグリクラブ(6名参加)，こどもゆめまつり2回(延12名参加)，吉野川市ちびっこドームフェスティバル(6名参加)等</p> <hr/> <p>③-1 ホームページは各行事の状況や保護者等に伝えなければならないことを意識し，その都度リアルタイムで発信している。</p> <p>①-2 野菜果樹(20名参加)，押し花(7名参加)，藍染め(8名参加)，食品製造(9名参加)，簿記入門(22名参加)，プログラミング入門(29名参加)，接客実習(15名参加)(中学生111名，保護者14名，引率教員21名参加)</p>			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
2 確かな学力の育成	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 2) 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基礎学力の向上に向けた取り組み ① 学校関係者評価アンケートの実施 ① 読書習慣の定着 ① 図書館の魅力の向上 ② 各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上 ② 体験的・実践的な農業・商業教育の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上</p> <p>①-2 学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒授業満足度 80%以上</li> <li>職員授業充実度 80%以上</li> <li>保護者学力向上・学習内容充実度 70%以上</li> <li>基礎学力に向けた取り組み満足度 80%以上</li> </ul> <p>①-3 校内読書会の実施回数と参加者数 年6回 120人</p> <p>①-4 貸出冊数 3,000冊</p> <p>①-5 読書感想文の応募数 350人</p> <p>①-6 図書館だよりの発行回数 年10回</p> <p>①-7 図書館蔵書の満足度 90%</p> <p>①-8 図書館入館者数 5,000人</p> <p>①-9 朝読週間の実施回数 年10回</p> <p>①-10 朝読週間 生徒満足度 75%以上</p> <p>②-1 [農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本農業技術検定3級 受験率:100% 合格者:90%以上</li> <li>農業科学科, 生物活用科1年</li> <li>フラワー装飾・園芸装飾技能検定3級 受験率:100% 合格者:90%以上</li> <li>生物活用科3年</li> </ul> <p>[商業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全商3級1種目以上 取得者100%</li> <li>全商2級1種目以上 取得者70%</li> <li>全商1級1種目以上 取得者30名</li> <li>全商1級2種目以上 取得者10名</li> <li>全商1級3種目以上 取得者5名</li> <li>日商簿記2級合格 1名</li> </ul> <p>②-2 県教育委員会等主催の「特色ある取り組みに関する各種事業」の実施 3事業以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 職員研修・学力向上委員会 計3回実施</p> <p>①-2 生徒授業満足度 71.5% 職員授業充実度 92.0% 保護者学力向上満足度 70.2% 保護者学習内容充実度 69.2% 生徒基礎学力満足度 62.6% 職員基礎学力満足度 94.0%</p> <p>①-3 校内読書会 6回実施(161名参加)</p> <p>①-4 貸出冊数 1,252冊</p> <p>①-5 応募数 368人</p> <p>①-6 発行回数 10回発行</p> <p>①-7 蔵書満足度 97%</p> <p>①-8 入室者数 3,624人</p> <p>①-9 朝読週間 9回実施</p> <p>①-10 朝読週間 生徒満足度 83.8%</p> <p>②-1 [農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本農業技術検定3級 46.5%(20/43)</li> <li>日本農業技術検定2級 37.5%(3/8)</li> <li>フラワー装飾検定3級 受験率100%(9/9) 合格率100%(9/9)</li> <li>園芸装飾検定3級 受験率93%(14/15) 合格率100%(14/14)</li> </ul> <p>[商業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全商3級1種目以上 取得者89.4%</li> <li>全商2級1種目以上 取得者59.0%</li> <li>全商1級1種目以上 取得者25名</li> <li>全商1級2種目以上 取得者7名</li> <li>全商1級3種目以上 取得者1名</li> <li>日商簿記2級合格 未受験</li> <li>ITパスポート合格 未受験</li> </ul> <p>②-2 「スーパー・オンリーワンハイスクール事業」や「TOKUSHIMA消費者教育活性化事業」を計画通り実施</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上への取り組みにおいて、生徒の基礎学力や満足度は、少なからず向上しているが、読書会への参加者が減少している。読書会への参加者を増やすための工夫を講じていく。</li> <li>朝読週間では、ほとんどの生徒が前向きに読書している。読書会への参加者も増加している。読書会への参加者を増やすための工夫を講じていく。</li> <li>校内読書会の開催日を例年より早く知らせたい。呼びかけなどにより、読書会への参加者は増加している。読書会への参加者を増やすための工夫を講じていく。</li> <li>図書館の入館者数、貸出冊数とも大幅に減少している。原因として、本年度から3年生の各教室に学級文庫を設置したことや、全体的な読書離れが考えられる。</li> <li>農業科の園芸装飾とフラワー装飾の資格は高い合格率であった。また、日本農業技術検定2級に3名が合格した。商業科の検定取得者の割合は、前年度より上昇したが、目標値よりまだまだ低い。今後とも各生徒に資格取得の意義を教え、目標が達成できるよう補習等の充実を図る。</li> <li>今年度、「スーパー・オンリーワンハイスクール事業」の指定を受けることができ、特色ある取組ができた。来年度もこの取組を継続し、地域に貢献する学校づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用状況を改善するために、H R 活用のための授業時間を確保する。読書会への参加者を増やすための工夫を講じていく。</li> <li>生徒・保護者と教職員とで、読書会への参加者を増やすための工夫を講じていく。</li> <li>本校では、自分に自信が持てない生徒が多くいるので、叱るだけでなく褒めて伸ばす指導を取り入れていく。</li> <li>課題研究発表会を、人前で発表するだけでなく、子供達の間で発表することによって、自信につながる。学生の間ではインプットすることが多いが、社会に出るとアウトプットの方が多くなる。仕事の内容を報告する、相手に適切に内容を伝える練習をしていく。</li> </ul>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 学力向上委員会において取り組みの検証を行う。</p> <p>①-2 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施する。</p> <p>①-3 希望者を募り、校内読書会を実施する。</p> <p>①-5 読書感想文コンクールに応募する。</p> <p>①-7 購入希望図書アンケートを実施する。</p> <p>①-8 図書館を利用した授業等でアンケートを実施する。</p> <p>①-9 毎月1週間朝読週間を実施する。</p> <p>②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。</p> <p>②-2 実施計画書に基づいて実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学力向上委員会を1回開催し、課題テスト等について改善策を話し合った。職員研修として基礎学力診断テストの説明会を2回行った。</p> <p>①-2 全校生徒並びに保護者・教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。</p> <p>①-3 図書委員(40名)を中心に、6回読書会を実施した。</p> <p>①-5 全校生徒に夏休みの課題として、読書感想文を課した。</p> <p>①-7 図書館だよりで知らせ、1月末まで随時受け付けた。</p> <p>①-8 2学期に実施した。</p> <p>①-9 毎月実施し、83.8%の生徒が充実していると回答している。</p> <p>②-1 商業科では、電卓検定や簿記検定、情報処理検定の補習を2週間実施した。農業科では園芸装飾や農業技術検定の補習を実施した。</p> <p>②-2 スーパー・オンリーワンハイスクール事業においては、「6次産業化教育を「アートという切り口で表現」し、校内外において作品展示等を行った。TOKUSHIMA消費者教育活性化事業食の安全・安心を目指すためパッケージデザインやポップ及び広告を考案した。</p>		

【備考】 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) 1) 基本的な生活習慣を確立を図り、身だしなみを整え、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 3) 教職員間での情報の共有化を推進する 4) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。 5) いじめ防止等対策委員会の校内体制の運営に努める。  (下位組織レベル) ① 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立 ① 集会時や校長室・職員室・進路指導室入室時の服装の整備の徹底 ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化 ④ 常時指導と組織的な対応を継続 ⑤ 常時指導と組織的な対応を継続	<b>評価指標</b> ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回以上 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 各学年4.5%以下 ①-4 ネクタイ・リボン・靴下・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR年3回実施 ----- ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ----- ③ 学年別の情報交換会実施 毎学期1回 ----- ④ いじめのアンケート実施 年2回 ----- ⑤ いじめ行為等の事案が発生したらすみやかに委員会を開き適切に対応 随時 <b>活動計画</b> ①-1 毎朝校門で頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施する。 ①-2 生徒指導課を中心とし、毎月1回、学校安全の日を実施するとともに登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回は行う。 ①-3 生徒指導課を中心とし、毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。 ①-4 校長室・職員室・進路室入室や集会等において着用を徹底する。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を行う。 ----- ②-1 職員朝礼において共通理解を図る。 ②-2 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応する。 ----- ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有する。 ----- ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努める。 ----- ⑤ 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 概ね実施 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率1年2.38% 2年3.60% 3年3.03% ①-4 ネクタイ・リボン・靴下・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR 1回実施 ----- ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ----- ③ 学年別の情報交換会(学年会)実施 3回実施 ----- ④ いじめのアンケート実施 2回実施 ----- ⑤ 基本方針の見直しの委員会 1回実施 <b>活動計画の実施状況</b> ①-1 毎朝校門で5～8名程度の職員による登校指導を実施し、服装・頭髪指導はもとより、遅刻指導についても強化した。 ①-2 学校安全の日における登校指導 12回実施(毎月1回) 鴨島駅・山川駅周辺での立哨指導 35回実施 長期休業日中巡視(夏季9・冬季8・春季6) 23回実施 ①-3 頭髪服装指導徹底率(アンケート結果から) 教職員82.0% 生徒90.2% 保護者 77.8% ①-4 日頃からネクタイ・リボン着用について徹底して継続指導を実施している。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を学年会で全体に確認しながら行った。 ②-1 職員朝礼において共通理解が必要な事項は随時連絡を密にし、意思の疎通を図った。 ②-2 苦情や相談が毎月3件程度あったので、立哨指導を実施するなど迅速かつ誠実に対応できた。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況等を共有できた。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し早期対応に努め、大事には至っていない。最近いじめられたことがある(アンケート調査) 1年生(3名) 2年生(0名) 3年生(2名) ⑤ 上記のアンケート結果を受け、担任や相談課の面接で、いじめとされる事案は、友人関係のトラブルや本人の思い込みと判明した。	<b>評価</b> 評定 B 総合評価 B (所見) ・アンケート結果から、生徒はあいさつについては8割以上、服装・頭髪については9割以上の生徒がきちんとしていると回答している。教職員についてもほぼ同じようなアンケート結果が出ているが、保護者の服装頭髪についての結果は8割を下回ったので、新たな方策を検討し継続指導する必要がある。 ・校外での生徒の行動に関して、鴨島駅・山川駅周辺や近隣の小売店でのマナー違反、自転車通学生の飛び出し、信号無視、傘差し運転や並進等について地域住民から苦情の電話も時々ある。今後も登校指導・下校指導を継続し、マナーの向上や交通事故の防止に努めていきたい。また、2学期から15名の生徒が登下校時にヘルメットの着用し、モニタリングを実施した。 ・生徒指導上の諸問題は、昨年度とほぼ同数であった。遅刻・欠席する生徒についても横ばいで、学校生活に集中できていない生徒が若干おり、家庭との連携をとりながら指導を強化する必要がある。 ・今後とも教職員の組織力の向上と共通理解を図り、地域住民や近隣中学校からも信頼され、愛される「吉野川高校」をめざしていく。	・学校外での交通マナー遵守について、まだまだ指導が必要など感じる。 自転車のヘルメット着用は、モニタリングの生徒が各クラス1名ずつ登下校時に着用していることを知った。 スマートフォンはほとんどの生徒が持っている。登下校時にイヤホンで音楽を聴きながら自転車を運転している者もいて危険である。 自転車の交通事故については、高P連の賠償責任に全員加入しているが、自転車と歩行者との交通事故で、高校生でも加害者になり得る可能性があることを理解させてほしい。 ・スマホや携帯電話のいじめやトラブル等のコンプライアンスはどうなっているのか。素直な生徒が多いので、きちんと説明すれば納得し理解してくれ、大きなトラブルが無いことがわかった。スマホは、親が依存しているケースもあり、家庭でも使用についてのルール作りも必要なのではないか。 ・生徒が一目置いている先生はどのようなタイプか。毎朝の立哨指導で声掛けがあると、生徒は自分を見てくれていると安心することができ、信頼関係も築けているのだと知った。学校行事での生徒と先生の掛け合いが、仲の良さを象徴している。	・登下校時にイヤホンで音楽を聴きながらの自転車運転や並進、ゴミのポイ捨てなど一部の生徒の交通マナーが悪く、地域住民からの苦情がある。社会人として必要なマナーとして今後指導を徹底するとともに、生徒会に協力してもらい、生徒自身で解決できるように取り組ませる。 ・スマートフォンや携帯電話でのトラブルに巻き込まれないよう学校だけでなく家庭でも協力してもらうため、保護者対象の情報モラル講習会を開催する。 ・生徒との信頼関係構築は、日頃から生徒をしっかり観察することや、毎朝の立哨指導での声かけなど地道な取り組みが重要なので、今後とも継続していく。 ・いじめの早期発見、早期対応を図るため、いじめのアンケート調査とともにカウンセラー室を利用した悩み相談などを行っていく。
		<b>備考</b> 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満～70%以上達成 D:70%未満～60%以上達成 E:60%未満達成				

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
4 人権教育並びに 特別支援教育の推進	(全体レベル) 1) 普遍的・個別的な観点から学校教育全体をとおしての人権教育の推進する。 2) 自他を大切に作る心や態度を育成する。 3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。  (下位組織レベル) ①人権学習ホームルーム活動の充実 ②人権啓発活動の充実 ③教育相談・特別支援教育における教職員研修の充実 ④教育相談体制の充実 ⑤特別支援の計画策定及び関係機関との連携	①-1 生徒の参加体験型の活動を取り入れた人権学習ホームルーム実施回数 年5回 ①-2 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上 ②-1 人権映画会の実施 年1回 ②-2 人権映画会の生徒の満足度 80%以上 ②-3 生徒の人権啓発活動への参加 ・中・高生による人権交流事業への参加回数 年5回以上 ・文化祭展示用ポスター・標語・書道作品 1年生全員提出 ・人権の日の人権委員による啓発活動回数 年9回 ②-4 人権教育教職員研修の実施回数 年3回 ②-5 “あわ”人権学習ハンドブックの活用 年5回以上 ③-1 教育相談教職員研修の実施回数 年1回(それ以降は必要に応じて適宜) ③-2 特別支援教育研修会実施回数 年3回 ④-1 こころと体の健康カードの活用 年2回 ④-2 カウンセリング室の開放 週1回 ④-3 二者面談・三者面談に同席(適宜) ⑤-1 就労体験・実習協力事業所の確保 15社以上 ⑤-2 特別な支援を必要としていた卒業生の継続支援を行う。 のべ10社以上	①-1 人権ホームルーム 5回実施 ①-2 生徒の満足度 68.9% ②-1 11月実施・人権劇公演会実施 ②-2 生徒の満足度 85.0% ②-3 ・人権交流事業への参加 5回 ・人権標語提出 全員提出 ・ポスター(美術選択者のみ) 全員提出 ・書道作品は今年度の提出なし ・人権の日における啓発活動 9回 ②-4 職員研修(HR活動研修含む) 8回 ②-5 ハンドブックの活用 5回 ③-1 教育相談職員研修 1回実施 ③-2 特別支援教育職員研修 3回実施 ④-1 全校生徒へのアンケート実施 2回 ④-2 カウンセリング室開放 毎週金曜昼休みに開放 ④-3 特別支援(教育相談)三者面談 14回実施 ⑤-1 就労体験・実習協力事業所の確保と参加者数18社確保、延べ10名参加 ⑤-2 職場訪問による継続指導 6社訪問、延べ8名支援	B	B
		①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図る。 ②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。 ②-4 人権問題の実態から学ぶ研修を実施する。 ③-2 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。 ④-1 特別な支援が必要な生徒に対しての相談活動を推進する。 ④-2 カウンセリング室を開放することにより生徒個々の状態を把握するとともに生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ④-3 みなと高等学園他、関係機関との連携・相談を図る。 ⑤-1 外部機関と連携を深めるとともに、企業訪問を行う。 ⑤-2 職場訪問をし、継続支援を行う。	①-1 人権意識調査を実施し、年間計画に沿って課題の人権学習の指導案や資料を作成し、学年ごとに研修会を通して研修の充実と連携を深めた。 ②-1 ハンセン病回復者の人権問題について、人権劇公演会や人権映画鑑賞を実施した。 ③-2 個別の指導計画作成の研修会を実施した。 ④-1 特別な支援を必要とする生徒の保護者との面談を14回実施した。 ④-2 カウンセリング室利用についての掲示や、教育相談に関する文書を保護者に配布し、延べ7名の相談を実施した。 ④-3 みなと高等学園、発達障がい者総合支援センター等と連携を図り、保護者・生徒の相談を実施した。 ⑤-1 障がい者就業・生活支援センター等と連携を深め、18社の企業訪問を実施した。 ⑤-2 卒業生の職場を訪問し、生徒の状況を確認でき、事業所からの相談を受けた。	B	A

【備考】評価における「評定」の基準 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満~70%以上達成 D: 70%未満~60%以上達成 E: 60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
5進路指導の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>1) キャリア教育を通して望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。</p> <p>2) 進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。</p> <p>3) 進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①キャリア教育全体計画の策定とそれに基づいた取り組みの推進</p> <p>②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底</p> <p>③個々の進路希望に応じた進路開拓の推進</p> <p>④進路指導の力量を高めるため、教職員研修を実施</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 外部講師招聘回数 年3回</p> <p>①-2 校内・校外ガイダンス実施 年各3回</p> <p>①-3 オープンキャンパス参加率 100%</p> <p>①-4 進路補習実施 生徒の満足度80%以上</p> <p>①-5 企業見学・職場体験の実施 20事業所程度</p> <p>②-1 保護者への説明および情報提供 年2回 担任の面談実施回数 各人2回以上</p> <p>②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 年4回</p> <p>②-3 就職・進学資料の提供 年5回程度</p> <p>②-4 特別支援を必要とする生徒の進路相談 随時</p> <p>③ 企業訪問の実施 200事業所</p> <p>④ 学年ごとに教員研修会を実施 年2回</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 ビジネスマナー講座等において外部講師の活用を図る。</p> <p>①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。</p> <p>①-4 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。</p> <p>②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。</p> <p>②-2 「キャリアノート」を活用した進路ホームルーム活動を実施する。</p> <p>②-4 支援が必要な生徒に対し、担当教員や外部組織と連携し進路指導を進める。</p> <p>③ 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。</p> <p>④ 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 外部講師招聘回数 5回</p> <p>①-2 校内・校外ガイダンス実施 校内4回</p> <p>①-3 オープンキャンパス参加率100%</p> <p>①-4 進路補習実施 夏休み7日</p> <p>①-5 企業見学・職場体験の実施 18事業所34名</p> <p>②-1 保護者への情報提供 2回 担任の面談実施回数 各学期1回</p> <p>②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 1回</p> <p>②-3 就職・進学資料の提供 10回</p> <p>②-4 生徒の進路相談 28名</p> <p>③ 企業訪問の実施 112事業所</p> <p>④ 学年ごとに教員研修会を実施 2回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 2 5月にPTA総会時の進路ガイダンス、8月に3年生の就職希望者対象に就職ガイダンス、10月に1・2年生対象のガイダンスを実施した。また、2月には講演会、3月にはガイダンスを予定している。</p> <p>①-4 3年生対象に就職・進学に向けた5教科の補習を実施した。7日間：7/21～7/29</p> <p>②-1 PTA総会において、進路ガイダンスや保護者面談を実施した。また、夏休みには三者面談を実施した。</p> <p>②-2 「キャリアノート」を活用し、就職に必要な自己PR、面接トレーニング等を実施した。</p> <p>②-4 障がい者職業支援センターやハローワーク等と連携し、就職支援を行った。</p> <p>③ 新規の企業訪問を実施し、新たに開拓した企業は3社であった。</p> <p>④ 3年学年会において、調査書の作成、面接等の指導について職員研修を実施した。</p>	<p>評定</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・1学期は、外部講師によるガイダンスの実施や講演会を実施した。特にPTA総会時の進路ガイダンスでは、保護者の方にも参加していただき詳細な情報提供を行うことができた。しかし、参加する保護者が少ないので、増やす方策として保護者との連絡や情報提供を密にし、就職や進学について深く知ってもらうようにしていきたい。</p> <p>・2・3学期の進路ガイダンスを通して、現実の厳しさ、そして顕在的なこと、自分のやるべきことなど多くの情報を得ることができたと思う。</p> <p>・学んだ知識や技術を発揮できるような職場を開拓していくために資格取得や専門教科を生かした活動等の取り組みを積極的に広報していく必要がある。</p> <p>・生徒の進路に関する意識の向上等に向けて、本校におけるキャリア教育を体系的に実施できるよう全体計画と年間計画をチェックと改善を行い、教職員に周知していく。</p>	<p>・県内の求人数は、どうなっているのか。企業にマッチできていないのに就職し、離職している子供もいる。離職が求人に影響を及ぼしているのでは。職場見学やインターンシップを通して会社をよく知り、ミスマッチを減らす指導をお願いしたい。</p> <p>・サービス業・製造業は人手不足だが、オリンピックの前年までがピークと考えられる。景気のピークを過ぎても持ちこたえられる体力や技術を、学校側も身につける対策を今から始めてはどうか。</p> <p>・就職するまでの指導にとどまらず、職場でのマナーや社会人としての心構えについての指導もお願いしたい。特に職場でのスマートフォンのリスクを教え、「ネチケツ」を身につけておいて欲しい。</p> <p>・卒業後、農業・商業それぞれの学習を活かせるような関連企業への求人開拓にさらに取り組んでほしい。</p>	<p>・生徒の早期離職が問題となっており、就職後にミスマッチに気づきやめてしまうケースがある。就職先を決める前に、インターンシップや職場見学を十分行うとともに、生徒の希望のある職種への企業開拓を進めていく。</p> <p>・本校在学中に社会人として身に付けて欲しい力を吉野川高校スタンダードとして掲げている。これを教員・生徒が常に意識しながら取り組む。</p> <p>・最近問題となっているスマートフォン等の使用方法の情報モラルを徹底するため、保護者にも協力を求めながら講習会等を開催する。</p>

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成



平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) 1) 生徒会活動・ホームルーム活動・学校活性化を図る。 2) 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 3) 地域の環境整備に努める。  (下位組織レベル) ①生徒会活動,ホームルーム活動の活性化 ①学校行事の活性化 ②部活動の活性化と学校リーダーの育成 ②農業クラブ活動の活性化 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	<b>評価指標</b> ①-1 生徒会活動に対する満足度 70%  ①-2 あいさつ運動実施 年10回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 70% ①-4 各種委員会の充実度 70% ①-5 学校祭の満足度 75% ----- ②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年70%  ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各科での取り組みと目標 (商業) 情報処理競技会・電卓競技会・ワープロ競技会・簿記コンクール・意見体験発表大会・商業研究発表・簿記新人大会 3位以内 (農業) 農業クラブ県予選会において最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート, フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞: 1作品以上 県内入賞: 5作品以上	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 生徒会活動に対する満足度 86.2% ①-2 あいさつ運動(予定含む) 25回 ①-3 ホームルーム活動の充実度 79.1% ①-4 各種委員会の充実度 69.7% ①-5 学校祭の満足度 75.3% ----- ②-1 部活動加入率 1年生100%, 2年生75%, 3年生78% ②-2 各部主将, 部長会 2回 ②-3 (商業) ・情報処理競技会 (個人で全国大会出場) ・意見体験発表会 (四国大会出場) (農業) 意見発表(分野: I 類生産・流通・経営) 四国大会優秀賞受賞 意見発表(分野: III類ヒューマンサービス) 四国大会優秀賞受賞 農業鑑定競技会(分野: 農業, 園芸) 全国大会2名出場 押し花アート 県内: 第24回放美展 梅岡トヨ賞 1作品 入選 5作品 第44回全国公募県手工芸展 優秀賞 1作品 佳作 2作品 全国: 第13回全国高校生押し花コンテスト 団体: 審査員特別賞 1作品 個人: 西日本新聞社賞 1作品 奨励賞 1作品	<b>評価</b> 評定 B 総合評価 B  (所見) ・あいさつ運動では生徒会が中心となり「あいさつをしよう」という看板を持って大きな声であいさつを行うなど積極的に取り組めた。また、生徒会役員がクラスでもリーダーとなるなど、様々な学校行事において活躍した。 ・部活動入部率は全体で89%と前年度より3ポイント高くなっており、部活動が年々活発になってきている。今後は技術面の向上はもとより、ここ一番力を発揮できるように精神面も強化するなど、魅力ある部活動となるためにさらなる活性化を図りたい。	・リーダーとなれる人材を育てるためにも、あいさつ運動を成功体験として盛んにしていくことが大事である。 ・あいさつ運動以外にも、生徒会活動の中に、「小集団で何かをする」という体験を取り入れると良い。人数が少なければ、一人一人の成果がわかりやすいので「成果の見える化」が図られ、リーダーが育ちやすいというメリットがある。是非検討してほしい。 ・部活動入部率は前年度よりも高くなってきているが、満足度は前年度より低くなっている点に期待し、自己実現をしたいと願う生徒の要望に応えられるよう、指導のあり方を見直す契機としてほしい。部活動が一つの心の拠り所になることを期待する。 ・部の数が多く、1つの部の人数が少ないという状況の中で、強く、成果を上げられる部にするためには難しい面もあるだろう。しかし、部員の多くにレギュラーとして活躍できる機会が与えられるという点はメリットであると考えられる。部の数が生徒の人数に対して多いかどうかは、今後の活動の様子や生徒の満足度を注意深く考え併せて判断する必要がある。	・生徒会が中心となりあいさつ運動を行っている。この活動は、生徒の成功体験につながる取り組みなので、今後とも継続し、地域住民に対してもしっかりあいさつができるようにしていく。 ・教員は、部活動が活発に行われている認識だが、生徒にとっては、十分に満足していない状況である。叱るだけでなく褒めて伸ばす指導を取り入れるなど生徒一人一人にあった指導方法を考え、生徒の自己実現や達成感が得られるようにしていく。 ・生徒数に対して、部の数の多さが部員数の少なさに繋がっている。しかし、ただ部を減らすのではなく、魅力ある部活動にするための努力を教員が考えていくことが大切である。
		<b>活動計画</b> ①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。  ①-4 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-5 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。 ----- ②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り、女子運動部の入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。各顧問等の指導によりアグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 朝のあいさつ運動, 球技大会, 各種大会, 壮行会等を生徒会が中心となり実行できた。 ①-2 4月2回, 5月3回, 6月3回, 9月2回, 10月3回, 11月2回, 12月2回, 1月3回, 2月3回(予定), 3月2回(予定) ①-4 校門前でのあいさつ運動は毎月実施している。地域等でのボランティア活動等は、生徒会役員と環境美化委員が7月15日に校外清掃活動を実施した。ボランティア部等の生徒が、江川周辺の環境整備を行うとともにユリの花祭りに協力した。 ----- ②-1 4月に部活動紹介を実施したが、今後とも各顧問が積極的に声かけを行い、勧誘していく。 ②-2 年度初め, 総体前の2回校内外での生活, 大会出場時や応援時のマナー等について指導した。 ②-3 ビジネス研究部等による商業に関する競技会や発表会では全国大会や四国大会出場に出場した。また、農業クラブにおける意見発表は、県大会を勝ち抜き四国大会へと駒を進め優秀賞を受賞した。農業鑑定競技会では、10月の全国大会に2名が出場した。押し花アートは、上記のとおり全国3作品, 県内9作品が入賞した。			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満~70%以上達成 D: 70%未満~60%以上達成 E: 60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) 1) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 2) 新学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 3) 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。  (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ①適切な保健管理 ①自己の健康管理能力の育成 ①適切な健康相談活動 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②正しい農薬散布の徹底と事故防止 ③食育の実施	<b>評価指標</b> ①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 年2回実施 ①-3 防災クラブの活動 年5回以上 ①-4 保健だよりの発行 年10回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年2回  ②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。  ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 85%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比10%削減  ③-1 食育通信の発行 年2回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 3回実施 ①-3 防災クラブの活動 5回 ①-4 保健だよりの発行 8回 ①-5 各種講演会の実施 4回 ①-6 健診結果の通知 ~7月通知 ①-7 保健調査実施 2回  ②-1 電気の使用量 前年約6%上回る 水道の使用量 前年約4%下回る ②-2 アンケート調査 生徒87.5% 職員76.0% ②-3 アンケート調査 生徒76.7% 職員90.0% ②-4 必要最小限度にとどめている。  ③-1 食育通信の発行 2回発行 ③-2 食育関連講習会の実施 3回	<b>評価</b> 評定 B 総合評価 B (所見) ・1学期の避難訓練は地震発生時の対応の仕方など机上訓練を実施した。2学期は消火訓練や簡易搬送訓練の実践的な訓練を取り入れた避難訓練に取り組んだ。今後は様々な状況下での避難訓練を考えていきたい。 ・防災クラブから今年度も防災士が誕生した。文化祭等で身につけた技能や知識を学校全体で共有して、防災啓発としての意識を高めていきたい。 ・節電・節水の取り組みでは、電気の使用量が前年度を上回った。原因は例年になく暑いことから、エアコンの使用回数の増加と考えられる。水道の使用量は下回ったので、この状況を維持できるよう、継続して節水に取り組みたい。 ・整った環境が保たれている反面、毎日の清掃に取り組めていない生徒が少数いるようだ。担当の先生、担任と連絡を密にし、全員清掃を目指していきたい。 ・健康診断の結果通知により家庭での健康力向上につながっている。また各種講習会では、生徒は熱心に取り組めた。 ・食育啓発の一貫として開催しているとして料理講習会の内容や時期 ・実習場所の設備(空調関係)を考慮しての見直しが必要である。食育通信の発行は、全生徒や保護者、教職員の食育の啓発に役立たせたいと作成している。	・防災士が誕生し、防災意識の高い生徒が増えていることは大変好ましいことである。 ・校内での活動にとどまらず、地域の防災リーダーと一緒に活動するイベントもできる。本校は緊急の避難場所になっているので、災害時に動けるような訓練もしておくことも重要である。 ・地域の祭りなどのイベントに生徒を参加させ、顔つなぎをしておけばいざという時に役立つ。 ・実際の災害時に生徒達に動いてもらえるよう、マニュアルや備蓄用品の保管場所についても生徒達に伝えておくべきではないか。 ・会社としても、防災の知識や技能を持つ生徒が入社してくれたら心強いので、防災クラブの活動を就職活動の強みとできるのではないか。 ・災害を想定した会社の取り組みにおいては、保険に加入すること以外では、減災、つまり「災害が来た後にどのように復旧するか」という体制を整えることにある。防災士を取得した生徒はニーズがあるであろう。
		<b>活動計画</b> ①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所の確認をする。  ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。  ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 性教育講演会・心肺蘇生法講習会・熱中症対策講習会を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。  ②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。毎日HR日誌にエコチェックを記入してもらい、必要に応じて生活の見直しを促す。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。  ③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 食育講演会やPTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災に関する書籍や講演を紹介した。 ①-2 5月と11月にJアラートによる避難訓練を計画し、地震発生時の対応の仕方や避難経路、避難場所、危険箇所を確認した。また10月の避難訓練では、消防署の方にご指導いただいた。 ①-3 夏休みに防災に関する研修会に参加し、2名の生徒が高校生の防災士の資格を取得した。また、地域防災訓練に6名が参加した。 ①-4 内容はインフルエンザ、ジカウイルス、感染症、熱中症、歯周病、金属アレルギー等 ①-5 心肺蘇生法講習会、熱中症予防対策講習会、薬物乱用防止教室、校内地震防災講演会を実施した。 ①-6 各健診ごと1週間以内に保護者宛に通知した。 ①-7 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い、心身の健康課題把握に努めた。  ②-1 平成25年度からの水道量・電気量の月別使用量をグラフ化して掲示した。また毎日HR日誌にエコチェックを記入し、生活の見直しを行った。 ②-2 清掃活動や学校環境について生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイを定期的の実施した。また環境美化委員会による清掃活動を実施した。さらに生徒会と連携を図り地域清掃を実施した。 ②-4 最小限度の農薬散布が徹底できている。  ③-1 アグリ吉野川・スクールカフェ吉野川の代表生徒直筆の文章を掲載し、食に関する内容の他、望ましい食習慣の啓発の内容を心がけ、9月に第7号・3月に第8号を発行した。 ③-2 夏休みに家庭クラブ・PTA合同の料理講習会、1月と2月に家庭クラブの料理講習会を実施し、食育の啓発を行った。		
		①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 年2回実施 ①-3 防災クラブの活動 年5回以上 ①-4 保健だよりの発行 年10回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年2回  ②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。  ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 85%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比10%削減  ③-1 食育通信の発行 年2回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	<b>評価</b> 評定 B 総合評価 B (所見) ・1学期の避難訓練は地震発生時の対応の仕方など机上訓練を実施した。2学期は消火訓練や簡易搬送訓練の実践的な訓練を取り入れた避難訓練に取り組んだ。今後は様々な状況下での避難訓練を考えていきたい。 ・防災クラブから今年度も防災士が誕生した。文化祭等で身につけた技能や知識を学校全体で共有して、防災啓発としての意識を高めていきたい。 ・節電・節水の取り組みでは、電気の使用量が前年度を上回った。原因は例年になく暑いことから、エアコンの使用回数の増加と考えられる。水道の使用量は下回ったので、この状況を維持できるよう、継続して節水に取り組みたい。 ・整った環境が保たれている反面、毎日の清掃に取り組めていない生徒が少数いるようだ。担当の先生、担任と連絡を密にし、全員清掃を目指していきたい。 ・健康診断の結果通知により家庭での健康力向上につながっている。また各種講習会では、生徒は熱心に取り組めた。 ・食育啓発の一貫として開催しているとして料理講習会の内容や時期 ・実習場所の設備(空調関係)を考慮しての見直しが必要である。食育通信の発行は、全生徒や保護者、教職員の食育の啓発に役立たせたいと作成している。	・防災士が誕生し、防災意識の高い生徒が増えていることは大変好ましいことである。 ・校内での活動にとどまらず、地域の防災リーダーと一緒に活動するイベントもできる。本校は緊急の避難場所になっているので、災害時に動けるような訓練もしておくことも重要である。 ・地域の祭りなどのイベントに生徒を参加させ、顔つなぎをしておけばいざという時に役立つ。 ・実際の災害時に生徒達に動いてもらえるよう、マニュアルや備蓄用品の保管場所についても生徒達に伝えておくべきではないか。 ・会社としても、防災の知識や技能を持つ生徒が入社してくれたら心強いので、防災クラブの活動を就職活動の強みとできるのではないか。 ・災害を想定した会社の取り組みにおいては、保険に加入すること以外では、減災、つまり「災害が来た後にどのように復旧するか」という体制を整えることにある。防災士を取得した生徒はニーズがあるであろう。	
		<b>活動計画</b> ①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所の確認をする。  ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。  ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 性教育講演会・心肺蘇生法講習会・熱中症対策講習会を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。  ②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。毎日HR日誌にエコチェックを記入してもらい、必要に応じて生活の見直しを促す。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。  ③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 食育講演会やPTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災に関する書籍や講演を紹介した。 ①-2 5月と11月にJアラートによる避難訓練を計画し、地震発生時の対応の仕方や避難経路、避難場所、危険箇所を確認した。また10月の避難訓練では、消防署の方にご指導いただいた。 ①-3 夏休みに防災に関する研修会に参加し、2名の生徒が高校生の防災士の資格を取得した。また、地域防災訓練に6名が参加した。 ①-4 内容はインフルエンザ、ジカウイルス、感染症、熱中症、歯周病、金属アレルギー等 ①-5 心肺蘇生法講習会、熱中症予防対策講習会、薬物乱用防止教室、校内地震防災講演会を実施した。 ①-6 各健診ごと1週間以内に保護者宛に通知した。 ①-7 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い、心身の健康課題把握に努めた。  ②-1 平成25年度からの水道量・電気量の月別使用量をグラフ化して掲示した。また毎日HR日誌にエコチェックを記入し、生活の見直しを行った。 ②-2 清掃活動や学校環境について生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイを定期的の実施した。また環境美化委員会による清掃活動を実施した。さらに生徒会と連携を図り地域清掃を実施した。 ②-4 最小限度の農薬散布が徹底できている。  ③-1 アグリ吉野川・スクールカフェ吉野川の代表生徒直筆の文章を掲載し、食に関する内容の他、望ましい食習慣の啓発の内容を心がけ、9月に第7号・3月に第8号を発行した。 ③-2 夏休みに家庭クラブ・PTA合同の料理講習会、1月と2月に家庭クラブの料理講習会を実施し、食育の啓発を行った。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成